

続ける防災・広げるパラスポ ～児童生徒主体の活動～

県立東金特別支援学校

1 はじめに

東金市にある東金特別支援学校は、千葉県東部に広がる九十九里平野のほぼ中央に位置している。本校は、昭和 48 年に知的障害の子供を教育する県立養護学校（現特別支援学校）として県内で初めて開校した学校である。

本校の教育活動の特色として、防災教育、オリンピック・パラリンピック教育（以下、オリ・パラ教育）に取り組んでいる。

平成 30 年に内閣府より「防災功労賞内閣総理大臣賞」を、令和元年には東京 2020 年オリンピック・パラリンピック大会組織委員会より「I' mPOSSIBLE アワード〈開催国〉特別賞」をそれぞれ受賞した。

本校の防災教育は、平成 23 年に内閣府「防災チャレンジプラン」の指定を受けて以来、防災教育を教育課程に位置付け、地域防災活動にも積極的に関わってきた。東日本大震災から 1 か月後からのスタートということもあり、命を守ることの大切さや地域と共に活動することの必要性などについて高い意識の元、活動を始めた。特に、地域との交流やネットワーク作りに力を入れ、その後も様々な防災活動を通じて、地域防災力の向上に貢献を続けている。

これらの取り組みが評価され、平成 30 年度に「魅力ある県立学校づくり大賞」の「最優秀賞」、令和 2 年度に「優秀賞」、3 年度に「特別賞」をそれぞれ受賞した。

新型コロナウイルス感染症対策から、地域と連携して防災力を高めるための関わりが少なくなってしまうが、「あたりまえ防災隊通信」の発行や、防災隊が中心となって「あたりまえ防災動画」を撮影し学校ホームページにアップするなど、地域との関わりをもち、防災の意識を高めることができた。

また、防災隊通信の各家庭への配布や、「あたりまえ防災動画」の全校集会での披露、「あたりまえ防災隊」による校内の安全点検の実施などにより、校内児童生徒の防災への意識が、より「あたりまえ」になっている。

一方、本校のオリ・パラ教育は平成 29 年度から推進してきた。オリ・パラ教育推進にあたり、児童生徒主体の「オリ・パラ」推進隊を平成 30 年度に立ち上げた（令和 3 年 10 月「パラスポ推進隊」に改名）。これは、校内はもとより、地域にオリンピック・パラリンピックやパラスポーツの魅力を広め、共生社会の実現を目的に結成された児童生徒主体の組織である。令和 5 年度は、小学部 5 名、中学部 5 名、高等部 18 名の計 28 名で活動をしている。

2 活動内容

①本校の防災活動と児童生徒有志による「あたりまえ防災隊」

平成 23 年から、全校生徒集会に地域住民（長寿会や自治会のボランティア部会）を招待し、校内に配置された防災グッズを探すゲームを通して交流している。また、高等部 3 年生が大学生のボランティアとともに、地域公民館を会場に長寿会と交流会を開いている。長寿会と生徒が互いに歌や踊りを披露しあい、防災体操をした。そして同年「東金地域防災教育ネットワーク会議」を立ち上げた。市内の学校、教育委員会、その他関係機関の防災担当者が集まり、情報交換や研究を行っている。平成 27 年から、災害時の避難所生活をテーマに生徒と地域住民が交流する「防災ウォークラリー」を開催、参加した生徒や地域住民は校内の各ブースで非常食の試食や段ボールベッドの寝心地体験、「あたりまえ防災」を歌って踊る等、ゲーム感覚で防災を学んでいる。

長年にわたる防災教育が児童生徒にも浸透し始めた平成 28 年、児童生徒の有志による「あたりまえ防災隊」が発足した。あたりまえ防災隊の活動は、校内の活動だけでなく、地域の方と一緒に防災活動をする機会を作り、本校の防災活動や防災についての考え方を広める役割も担っていった。

同年より「東金市こどものまちづくり活動（東金市青少年まちづくり活動）」の採択を受けて『あたりまえ防災』で災害に強いまちづくり」をテーマに活動し、防災ウォークラリーによる地域住民と一体となった防災活動を実施してきた。児童生徒たちは防災活動を続けることで、「自分たちのやっていることを多くの人に知ってもらいたい」「自分たちも地域のためにできることをしたい」という想いをもつようになってきている。

●「あたりまえ防災隊通信の発行」の実施

防災隊通信の発行を行い、防災隊の活動の様子を掲載し、全校の家庭に配布、地域の掲示板にも掲載した。防災隊の活動を全校の児童生徒や保護者、地域の方々に認知してもらおう活動になった。

●「避難訓練内で防災隊コーナー」の実施

令和5年度の避難訓練は、1回目各学部での実施、2回目避難場所は分かれたが、間隔をとり、全体で「あたりまえ防災隊」の児童生徒が避難時のルール（おかしもち）を確認するコーナーを担当した。

「あたりまえ防災隊による校内安全点検」

令和5年度は各学部の「あたりまえ防災隊」児童生徒が、教師による安全点検とは別に、各学部でよく使う教室などのチェック箇所をリスト化し点検を行った。安全点検を行うことで防災隊の活動の様子を全校の児童生徒が見て、防災への意識を高めることができた。

主に雨が降ったときの雨漏り箇所を重点的にチェックし、教師や全校の児童生徒に周知をした。

本年9月に台風が接近した際には、「あたりまえ防災隊」メンバーが全校放送で呼びかけ、その放送を聞いてサッシに新聞紙を詰めたり小窓が開いていないか自分たちで確認したりする姿が見られた。

子供たちの中にも「あたりまえ防災隊」の活動が根付き、「友たちがやっているから自分たちもやってみよう」という気持ちの表れであると考えている。

また、今年度は4年振りに消防署員の協力の元、避難訓練を行い、模擬消火訓練や消防車両に触れる機会などの体験的な学習を行うことができた。



台風接近前、全校放送を聞いてサッシに新聞紙を詰める小学部1年生の児童



避難訓練では、あたりまえ防災隊の児童生徒が避難時のルールを確認するコーナーを担当した。

消防署員による消火器使用訓練。
火災を見つけたら「大きな声を出し」
「周りに知らせ」「消火器を用意する」
ことを教えていただき、実際に行った。



小学部の児童も大きな消防車に喜び、署員さんから使い方を教えていただいた。

常に子供たちが主体の活動であることを心掛け、児童生徒が活動の中心であることで「飽きず、続けられる防災教育」を行っている。コロナ感染症による活動制限が緩和されるようになり、体験的な学習が可能になったことも子供たちにとって大きな喜びである。

防災教育において体験的な学びは大きい。コロナ禍でも培ってきた活動に、以前のように体験的な学びのある活動を織り交ぜて、学習を更に展開していきたい。

②本校の児童生徒有志による「パラスポ推進隊」

本校では、平成30年度に、東京2020年オリンピック・パラリンピック大会とパラスポーツを地域に広めることを目的として、「オリ・パラ」推進隊という名称で活動を開始した。東京2020大会終了後は、「パラスポ推進隊」と名称を変更し、持続して地域にパラスポーツを広めるために力を注いでいる。

●JIUスポーツパラダイス

令和5年度、千葉県から指定を受けた県内12校の1校として「パラアスリート等学校訪問事業」を活用した取組を行う。「パラアスリート学校訪問事業」は、特別支援学校にパラアスリート等を派遣してパラスポーツに係る各種講演や体験会を実施することにより、パラスポーツの振興、及び児童生徒や地域住民の障害への理解を深め、共生社会の実現を目指すことを目的としている。

本校では、学校運営協議会の委員で繋がりのある城西国際大学と連携をして、11月にボッチャのパラアスリート、千葉県ボッチャ協会の方を講師として招き、ボッチャの体験会を実施する予定である。なお、大学との連携は本校として初めての取組となる。

また、「パラスポ推進隊」としては、午前中に実施する上記の「パラアスリート等学校訪問事業」とは別に、パラスポーツの魅力を伝える活動を、以下のとおり午後に展開する予定である。

- ①3メートル先のフープに向かってボッチャボールを投げる。
- ②アイシェイドをつけて、5メートル離れたゴールに向けてゴールを狙う。
- ③座った状態で、5メートル離れた的にソフトバレーボールでサーブを打つ。

いずれの活動も、ゴールボールやボッチャ、シッティングバレーをより多くの児童生徒が楽しむために、どのようにしたら良いかという視点で考えた活動である。

「パラスポ推進隊」の児童生徒が中心となり、東金特別支援学校、全ての児童生徒、職員、そして協力を依頼する城西国際大学の学生、みんなが楽しみながら当日を迎えることが重要であると考えている。

●パラスポキャラバン

パラスポキャラバンは、地域の小・中学校に「パラスポ推進隊」の児童生徒が訪問し、ボッチャの出前授業を行う活動である。平成30年度から、継続的に児童生徒主体で行われていることや、相手校側から依頼が来るようになったこと等は、特筆すべきことであると考えている。

本取組は、児童生徒が講師となり授業を進めていくという点を大切にしている。練習は、毎週、月、水、金の3日間、昼休み12:45から13:05分の時間で行っている。「パラスポ推進隊」のメンバーは、何年も継続して取り組んでいるベテランから、今年度初めて参加した児童生徒もいる。

ボッチャの審判練習では、長く経験している生徒が、初めて取り組む生徒に「ここはこうした方が良いよ」というアドバイスをする場面がたくさん見られる。司会進行の練習では、初めは人前に出ること、人前で話をするのが苦手な推進隊の児童生徒も、仲間と一緒に練習を繰り返していくことで、徐々に自信をつけていく様子が見られる。

例年は、小学校に1件、中学校に1件の年間2件の学校を訪問してきたが、今年度は以前訪問した学校から再度の依頼があり、小学校2件、中学校2件の4件を実施予定である。5月には、東

金市立東中学校を訪問し、推進隊児童生徒9名が参加した。ボッチャのルールの説明や1人1コートを担当して審判を行った。参加した中学生から「初めてやったけど楽しかった」「また体験したい」という感想が聞かれ、本校の児童生徒からも、「自信になった」「楽しかった」という感想が聞かれた。



相手に伝わりやすいよう、ゆっくりと大きな声で行う、司会進行。

中学生を対象とした、ボッチャの審判の様子。



みんなで記念撮影
エンジョイボッチャ!

3 広 報

本校では、学期に1回、パラスポ推進隊の活動の様子を、全校児童生徒、保護者に紹介をする「パラスポ通信」を発行している。

「あたりまえ防災隊通信」を学期1回ホームページに掲載しており、毎月の閲覧数は、5,000件程度になっている。

令和5年10月には、熊谷県知事が来校し、パラスポ推進隊の取組を視察いただいた。東京2020年オリンピック・パラリンピック大会前後の本校の取組を紹介したパネル等をご覧いただき、「パラスポ推進隊」によるボッチャのルール説明の後、ボッチャを児童生徒と一緒にに行った。知事からは、「とても分かりやすい説明でした」、「またパラスポーツと一緒にやりましょう」といった、温かいお言葉をいただいた。また、全国から本校を訪れる学校からは「ホームページを見ました」と言われることも多く、いまだ衰えぬ注目の高さが伺える。

4 成果と課題

「あたりまえ防災隊」は、この13年間の継続した防災教育の取組を通して、児童生徒の中に防災活動を行うことが「あたりまえ」(日常的)になっている。そして、「あたりまえ」になってきているからこそ、「どのような活動をしたら、より防災の活動が自然に行えるようになるのか」を児童生徒一人一人が考えることに繋がり、「児童生徒の主体性」を意識した活動として、未だ発展し続けている。

新型コロナウイルス感染症対策から、ここ数年は、地域と連携して行う「防災ウォークラリー」や「東金市防災フェスタ」、「東金市チャレンジドフェスタ」などの行事を見送ってきた。その中で、児童生徒から「地域と繋がるための代わりになるものを見つけよう」という想いの元、「あたりまえ防災隊通信」の発行や「あたりまえ防災動画」のバージョンアップ、ホームページへの動画アップなど、できる範囲での活動を取り入れてきた。以前に比べ、地域に発信し、関わる機会は少なくはなったが、その中でも工夫し、「防災の東金」という理解を広げ続けている。



地域の社会福祉協議会のイベントに参加し、ボッチャの審判

「パラスポ推進隊」は、地域の小中学校へのボッチャの出前授業や地域の社会福祉協議会のイベントへの参加等、これまでも地域に積極的に関わりをもつことで、地域との繋がりを深めてきた。活動を行った地域や学校から、「今年度も活動を実施してほしい」という依頼が複数あがっていることが、成果として挙げられる。

半面、活動を通して、パラスポーツの魅力を広める、障害に対する理解を深め、共生社会の実現を目指すという視点で考えると、まだまだ壁を感じる場面も多々ある。

「パラスポ推進隊」の児童生徒が日々行っている活動は小さな一歩かもしれない、しかし、その小さな一歩を続けていくことで、少しずつ輪が広がり、いずれは大きな輪となることを信じ、活動を継続していくことが大切であると考えている。



10月に植草学園大学で行われたボッチャ大会に初参加。3位入賞と、選手としても活躍する「パラスポ推進隊」。

5 取組の反響

児童生徒主体で防災教育やパラスポーツの振興活動をしている例は全国的にも先進的な取組であり、現在も、モデルケースとして全国に示し続けている。各県からの参観・取材の申し入れもあり、これまでも多くの助言・協力をしている。また、保護者の活動への理解も高く、学校評価アンケートでは、防災及びパラスポーツの項目について、「よくやっていると思う」という高い評価（98.3%）を占めていた。

これらの声は児童生徒にとっても大きな励みとなり、次の活動への意欲に繋がっている。

6 今後の方向性

防災教育は13年間、パラスポ推進は6年間、活動を継続している。先輩たちが築いてきた「レガシー」に敬意を払うとともに活動に向かう先輩たちの姿に対する憧れが、活動継続に結びついている。

これは、「防災」と「パラスポ」の両取組が児童生徒主体の活動であり、子供たちがそれぞれの活動にそれぞれの想いで魅了され、その良さを感じ、「自分も先輩たちのようになりたい」と考えていることに他ならない。これら一連の取組が本校の伝統となり、この伝統がこれからも続いていくように、みんなが「楽しい・続けたい」という気持ちになれるような活動を設定し続ける。

職員も、これまでの活動を通して、子供たちの笑顔や「楽しい」「またやろう」という言葉に力をもらい、「あたりまえ防災隊」も「パラスポ推進隊」と共に楽しみながら活動をしてきた。

これからも、東金特別支援学校の児童生徒、職員みんなで楽しみながら活動を継続していきたい。